週　報
2026　2/25
No.24
RI第2620地区
静岡第1グループ

三島ロータリークラブ
第3264回・通常例会

■会長:小野　徹君■幹事:星合義弘君
●司会:八木貴夫君
■URL:http://mishima-rc.com

会長挨拶

会長　小野　徹君

皆さんこんにちは。 2／15のIMは、私が言うのもおこがましいですが、大成功でした。他クラブの会長からも、「さすがは三島RCた」との、絶賛を受けました。

当日まで、長い準備期間の間、浅倉実行委員長、堀内ガバナー補佐、ガバナー補佐事務局の佐藤さん、山田君、山本君、アドバイスをしていただいた西原さん、様々な職務を、一生懸命に果たしていただいた多くの皆さまのおかげで、立派なIMができました。 また、会場設営に当たった伊丹君、式次第の表紙の絵や、合唱の指揮に当たった中山君、サイクルキャラバンの撮影・編集をしてくれた住本君、第一グループの歌を作ってくれた青田君等々、それぞれが、それぞれの責任を果たしていただきました。これだけ大きな大会ですから、反省すべき点もあろうかと思いますが、これらにつきましては、来年の「三島RC創立70周年」に活かしていきたいと思います。
皆さん、本当にありがとうございました。感謝あるのみです。

また、今日の卓話は、三島RCの長老格のお一人で、それこそ数々の修羅場を経験されてきた小沼君に、卓話をお願いしています。 楽しみに聞かせていただけれと思います。

幹事報告

幹事　星合義弘君

・年間プログラム表では空欄になっていました卓話担当者ですが、3月4日は勝又 規博君・4月8日は石井 真人君・5月20日は宮沢 淳子君が担当となりました。
・2026年度の米山奨学生の受け入れが決まりました。名前は張　傑（チョウ・ジェイ)君。国籍は中国、学校名は日本大学、国際総合政策学部です。カウンセラーは大庭　治美君にお願いすることになりました。
・稲葉ガバナー杯ゴルフ予選大会のお知らせです。4月16日に川奈ホテルゴルフコースで開催されますが、その予選会が3月16日（月)に中伊豆グリーンクラブで開催され、上位10名が本戦への出場資格を授与されます。参加ご希望の方はお申し出下さい。
・次回の例会は、3月4日通常例会、卓話　勝又規博君です。
なお、例会終了後に理事・役員会を開催します。

出席報告

	出席総数	出席率	
今　回	25／42	59．52%	会員総数:43名

＜欠席者＞
・石井君　・遠藤君　・太田君　・加藤(頌)君　・加藤(真)君
・河田君　・木下君　・齋藤君　・佐藤(良)君　・杉村君
・瀬川君　・関君　・永田君　・野口君　・宮内君　・山本君
・渡邉君

スマイルBOX

●堀内満喜子君
IMの開催にあたり、クラブの皆さまに心より感謝いたします。開催クラブである三島RCの結束力と行動力はまさに「三島RCの底力」でした。私自身、ガバナー補佐であると同時に三島RCの仲間の一人として、このIMを共に創り上げられたことを誇りに思っています。ありがとうございました！

●小野徹君
皆様のおかげでIMが大成功に終わりました。ありがとうございました。

●浅倉幸久君・山田敏博君
皆様のご協力をいただいて無事IMを終了することができました。ありがとうございました。

●大庭治美君
3月7日のゆうすい会の総会でRC小野徹会長の講演があります。ぜひ御参加下さいますようお願い致します。(ゆうすい会監事　大庭)

●山岡修一君
IMは多彩なプログラムで盛況、ご苦労様でした。

●Cテーブル
2/19にCテーブルのテーブル会を開催しました。大変有意義な時間となりました。会費を切りよく集めたので残金をスマイルします。

卓話

小沼孝次君

小野会長は、今年度最初の例会挨拶で会長方針を次のように述べられておられます。「古き良き伝統を大事にし、行きすぎた改革は見直さなければならない」でした。小野会長は会員の皆に、会長方針について問いかけをされています。私も思考してみました。伝統の宝庫である先輩の皆様を思い出し、何か発想出来ないかと、この資料を纏めて見ました。

資料は私が入会した「1990年度会員名簿」を基に、「明治・大正生まれの方々」について纏めたものです。会員総数73名、対象者数24名です。24名の皆様は現在すでに鬼籍に入られておられます。資料から伝統とは何か探してみました。

資料から、私が一時期、ご一緒させていただいた期間が4年未満の方が9人いらっしゃいます。0年で退会された方2人は除外させていただくと7人です。この中で記憶に無い方4人。記憶している方3人です。記憶している方を紹介しますと、一人目、太田さん：太田君のおじいさまです。旧南高のグラウンドで南高野球部の練習を見守られておられたことを思い出します。二人目、花島さん：息子さんが蘭の育成をされていたお話をお聴きしました。蘭の世界では有名な方だったようです。三人目、山本さん：三島ロータリークラブ囲碁部でご一緒させていただきました。記憶している先輩の方々は毎例会に出席されていました。私も同席させていただき、お話しを伺う事ができ、4年未満とみじかくても親しくなれたものと思われます。

4年以上ご一緒させていただいた方々は全員よく覚えています。ちなみに8人の方を紹介してみます。 ①浅羽さん：旅館の客室から池に浮かぶように能楽堂がみえます。池越しに能楽が楽しめる至巧になっています。大社クラブを迎え歓迎会を催したこともあります。浅羽さんの例会への出席ルートは温泉場から修善寺駅までバス、修善寺駅からは伊豆箱根鉄道で三島駅そして徒歩で田代グリルです。この時85歳ですから運転免許は返納されていたのかもしれません。 ⑦戸田さん：早稲田大学ボクシング部所属だったとのこと。色つきレンズの眼鏡を掛けていました、新人にはとても怖そうな方でした。 毎週お逢いしているうちに親しくなり、声をかけていだくようになりました。そして「なまいきなやつがいたら言ってこい。俺が一言言ってやる。」と。たいへんありがたく、力強い存在でした。その頃から時に朝7時頃に電話を頂くようになりました。例会予定・特別例会・他確認の問い合わせです。何故かこの頃から他の方からも、問い合わせを頂く事がふえてきました。浅羽さん・阪野さん・緒明さん・勝又さん・上杉さん・大野さん・住本さん・大村英男さんの方々です。皆さんとお話しが出来、なかなか楽しかった事を思い出します。毎週お逢いしていて親しくなった証だと思います。私は42歳のころでした。 ⑫阪野さん：私の家は質屋をやっておりまして、阪野さんとは同業であります。阪野さんからは保護司をやらないかと声を掛けていただきました。信頼していただき、有りがたい話でした、が申し訳ありませんでしたが、おことわりいたしました。なぜって、私自身がまだ何かしでかすのではと思いますし。聖人君子でいる小沼君が想像出来ませんでしたのです。お断りするのが正解でした。

⑭緒明さん：息子さんの春雄君とは同級で、年に1回食事会をしております。 ⑮勝又さん：お酒を飲めない勝又さんでしたが、時々数人で勝又さんを囲み、お酒を飲みながら、お話しを伺うことがありました。そこで、勝又さんが「ロータリーは、まず自分の仕事をしっかりすること。」次に「例会に主席すること。」欠席するときはメイクアップに対応すること。」水曜日のロータリーへの出欠を中心に仕事の計画が考えられるようになれば、大相撲で言われる「ちゃんこ鍋の味の染みついた力士」のように「ロータリーライフの染みついたロータリアン」となるとお聴きしました。 ⑯上杉さん：私が入会した年に、上杉さんは入会から33年間ホームクラブ皆出席を続けておられました。入院中でも点滴を外してもらい出席した強者です。これを野と言うか粋な大人と言うかはわかれますが。粋でいなせなかっこよさがあるとおもいます。その後も皆出席は続けておられました。息子さんとは同級生です。 ⑲大野さん：私、大野さんの幹事をさせていただきました。大野さんの会長方を聞かせていただきましたところ、例会は規定通り全部実施すること。夜間例会も全て実施する。その上で、夏の家族例会・忘年例会・春のお花見例会も実施し、愉快で楽しい例会にすることでした。ご希望通りに全てをすることは出来ませんでしたが、できる限り実行し、例会回数48回をおこないました。

この時の親睦委員長は大野さんのご指名で西原さんにお願いいたしました。楽しく愉快な印象に残る1年になりました。 予算を少々オーバーしましたが、赤字決算にすることはありませんでした。 この時の親睦活動の状況は、後日、西原さんにお話しいただきましょう。 又、夜間例会は芹沢佐会長、小野毅幹事の折に創出されたものとお聞きしておりますが。夜間例会創出の意義を小野毅さんにお話し頂きましょう。 ⑳住本さん：私のスポンサーです。そして西原さんのスポンサーでもあります。住本さんからは、入会時厳しく言われました。1年目は三島ロータリークラブの例会場、ホームクラブに皆出席すること。2年目以降、欠席する場合は必ずメイクアップをすること。これを守り私も西原さんも修正出席率100％を続けています。住本君は息子さんです。 この他、多くの方々がいらっしゃいますが、時間の関係で割愛させていただきます。

纏めますと

○浅羽さんはバス鉄道の公共交通機関を使っての例会出席です。

○戸田さんからは、例会出席の予定を組み立てること。

○阪野さんからは信頼される大切さを教えられました。

○勝又さんからは、出席することで、ロータリーライフの染みついたロータリアンになりなさいと。

○上杉さんは粋に皆出席をこなされていたこと

○大野さんからは、例会を愉快に楽しみなさいと。

○住本さんからは、出席することと、会員に負担のかかる事業はしないようにと、釘をさされました。

ロータリークラブは雑多な異業種の人々の集まりであり、30代から90代までの幅広い異世代との間に少々垣根がある難しい団体と思われます。会員同士がいかに親しくなり、親睦を深めていくかは、繁々と会うことと心得ます。

ポールハリスが提唱した制度、毎週一回は会うようにと。そして親しくなり、親睦を深めよう。これが基本でしょう。

例会回数を減らす改革に何の意義があるのでしょうか。伝統とはどんなものでしょうか。

35年前の先輩の方々は出席をすることを大事にし、年間48回の例会を楽しんでいたように思えます。伝統の継承が途切れてしまうのはさぞかし残念に思われているのでは無いでしょうか。 八木伝さん（八木さんも早稲田卒）は、例会をこのように言語化しております。 ロータリークラブの例会は大いなるマンネリズムだと。例会はいつも同じ事が想像される。しかし、会員はこれによって安心して例会に出席出来るものだと。楽しめるものだと。会長は例会に色を添え自分の例会年度の色としました。